



南の目指す生涯学習社会

～みんなが元気に みんなが幸せに～

第2回学校・家庭・地域連携協議会 2/14

秋田県庁第二庁舎を会場に「地域と学校の連携・協働の推進」をテーマにした連携協議会が開催されました。午前の講演では、山口大学霜川正幸教授から「やまぐち型地域連携教育」の実践についての講話をしていただきました。平成17年度から始まったコミュニティ・スクールの推進における取組の中でも、地域とともにある学校づくりは子どもが育ち、子どもが活躍する地域を目指していくことであることや、これまでの成果や今後の課題を包み隠さず、情報提供をしていただきました。秋田県内でもコミュニティ・スクールへの関心は高まりを見せています。秋田県の特徴を生かしたコミュニティ・スクールの推進するために、地域と学校が一体となって取り組んでいこうと気持ちを新たにしている有意義な時間でした。

午後のポスターセッションは、各市町村での今年度の取組について紹介が行われました。県南7市町村の紹介は、担当者の発表が内容も素晴らしく、中央や県北からの参加者が熱心に耳を傾けていました。来年度の活動へのヒントを学ぶことのできる貴重な交流の場でした。



東成瀬村の発表

あきたわくわく未来ゼミ特別講座 2/18～26



横手市交流センターY² ぷらざを会場に、大学の理工系学部への進学者を対象にした数学Ⅲ（微積分）の特別講座が全5回行われました。高大接続をスムーズにする目的で今年度で3年目の開催になります。比較的高度な内容に始めは戸惑う生徒もいましたが、講師の先生とのやりとりが深まるにつれ、理解もどんどん進んでいきました。

アドバイザーコラム：学校・家庭・地域の協働 5

コミュニティ・スクールで進める協働①

社会教育アドバイザー 小笠原 重夫

学校と地域との連携・協働の体制づくりと言ったとき、現在、湯沢市と羽後町が進めているコミュニティ・スクール(以下、CS)導入の動きは、注目しなければいけません。

CSは、地域と学校が協力して子どもの成長を支えることを目的に、平成16年度から導入された制度ですが、CSに指定された学校には、保護者や地域住民等が学校運営に参画するため「学校運営協議会」という組織が設置されます。

今年度、既に湯沢市では6つの小・中学校、羽後町では1つの小学校が、CSに先行指定されています。同市町は、令和2年度から域内のすべての小・中学校を、CSに指定するとしています。

このことにより同市町では、新年度からCSと「地域学校協働本部」との両輪で子どもたちを支える体制づくりが進められることとなります。

県内でCS導入が進む背景には、地域側には、少子化によって学校統合が進む中、学校との結び付きを強めて地域の活力を維持したい、学校側には、

地域との交流によって子どもたちの学びや体験を活発化させ愛郷心を育みたいと、双方に切実な思いがあるように感じます。

これまで県内の学校では、地域の伝統文化とのふれあいや世代間交流を通して愛郷心を育む「ふるさと教育」と、様々な技術をもつ地域住民から自立に必要な能力を学ぶ「キャリア教育」によって、学校と地域との交流・連携を深めてきました。

加えて、「学校支援地域本部事業」の活用により、地域住民等による学校の教育活動への支援活動も、とても活発に行われてきました。

それを考えると、県内では、学校と地域、家庭が一体となった取組は、もう既に充実している、成熟しているということもできます。

しかし、学校と地域との協力関係を一段と深め、必要とするものを互いに補い合う「協働」の関係まで高めていくためには、CS制度を活用する発想があってもよいのかな・・・？と、私は考えています。